

会 議 要 旨

会議名	令和6年度第1回館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日	令和6年8月21日（水）午後2時00分～午後3時25分
開催場所	館山市役所 本館2階会議室
出席者	館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員：11名 （事務局）館山市：4名 （オブザーバー）南房総市：3名
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 一部非公開 ☐ 非公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0名
会議概要・結果等	1. 開会 新たに委員となった4名を紹介した。 2. 議題 （1）令和5年度の事業報告について （2）令和6年度の事業計画について 2議題について事務局から説明し、一括して質疑応答とした。 【質疑応答】 《本間委員》この会は事業の評価をするのか、細かい議論をするのか。 《事務局》懇談会であることから、審議するのではなく、17事業で効果があるのか、また、他にも2市で取り組める事業があるのではないかと、など提案をいただきたい。 《本間委員》事業費の見方について説明してほしい。 《事務局》総事業費の内訳として一般財源、特定財源等に区分しているが、特定財源等は国・県等からの補助額であり、一般財源は市の負担である。 <u><事業1：医療体制の維持及び医療人材の確保事業></u> 《鈴木委員》6年度事業について、周産期及び小児医療に係るアンケート調査の実施、講話・勉強会の開催、とあるが、その対象者は誰なのか。ぜひ、子育て世代を対象としてもらいたい。 《事務局》市民対象のアンケートであり、子育て中の方を主な対象とする計画である。また、小児科医の講話についても子どもの健康をテーマに、季節柄や流行り病などにも触れ講話をしてもらうことを検討している。 《本間委員》5年度に館山市内の病院及び有床診療所を対象に実施したアンケート調査の結果は公開されているのか。看護師等が充足しているのか。 《事務局》回答者の主観であるが、全体で看護師数が6名、准看護師数は1名不足との結果であった。また、患者数と看護ス

タッフの割合である看護配置基準について、更なる充実を図るためには、看護師数が 29 名、准看護師数が 2 名必要である、との回答であった。

<事業 2：支援対象児童等見守り強化事業>

《石渡委員》厳密に支援対象児童のみを支援する事業なのか。

《事務局》要保護児童対策地域協議会を中心に把握している児童を対象としている。

《本間委員》6 年度の事業費が増えているが、どのような理由で増えたのか。

《事務局》資料の事業費について、5 年度は決算額、6 年度は予算額となっている。5 年度も 6 年度同等の予算を確保し、実績として資料に記載の事業費となった。6 年度の対象児童が増えたというわけではない。

《鎌田会長》館山市と南房総市それぞれ個別で実施している事業なのか。また、どのように連携しているのか。ビジョンに掲載しているということは、2 市で連携して効果がある事業だということだと思われるが。

《鈴木委員》南房総市の事業者に委託していると記憶しているが。

《事務局》それぞれ担当課に確認し、後日回答する。

<事業 6：中小企業支援事業>

《本間委員》K P I が起業者数を追っていることから、事業内容と K P I が合致しなくなるのではないかと。別の K P I を掲げた方がよいのではないかと。

《事務局》K P I の見直しは必要に応じ検討する。

<事業 8：地球温暖化防止対策事業>

《本間委員》2 市それぞれ『セロカーボンシティ宣言』をしているが、これに対する 2050 年までの脱炭素ロードマップは示されていないと思うので、2 市で作っていったらいいと思う。

《小笠原委員》昨年度の S D G s みらい甲子園千葉県大会にて安房高チームからブルーカーボンについて発表があった。アマモの再生を通じた海洋生態の保全と温室効果ガスの軽減をテーマにしたもので、素晴らしい内容だった。単一の高校だけではなく、2 市に所在する高校で連携して取組んだらどうかと思った。また、企業もカーボンニュートラルに非常に興味が高まっている。地域の優良企業の協力を仰いで、取組を大きくしていけたら良いと思う。

《事務局》それぞれ担当課に伝える。

<事業 9：生涯学習活動振興連携事業>

《石井委員》6 年度事業は稲村城跡を中心に事業が進んでいるようだが、岡本城跡と共に国指定の遺跡になっていることから、一体的に事業を進めてほしい。次年度は道の駅グリーンファーム館山で、稲村城跡だけではなく岡本城跡もあります

よ、と、一体的に周知をすることも検討してほしい。
《事務局》要望として担当課に伝える。

<事業10：社会体育施設連携事業>

《鎌田会長》観光や移住定住と比べ、公共施設の管理は連携が他の地域でもあまり進んでいない分野ではあるが、大事な取り組みであると思う。施設の相互利用について、実現可能なのか伺いたい。

《事務局》個別施設の事情を見ていくと調整に時間を要すると感じている。事業として掲げているので、実現に向け協議していくこととなる。

《鎌田会長》実現できた場合に、事業の効果としては、圏域内のサービスレベルの均一化と、利便性の向上のどちらか伺いたい。

《事務局》施設を相互利用できるようにすることで利便性を向上させることを目標としている。施設の立地も偏っている現状もあり、市内料金で利用できるようになれば稼働率や利便性の向上が見込まれる。料金の差額の精算や、施設維持管理経費の精算などの課題もある。

《鎌田会長》施設の相互利用が始まることで、市民は2市が一緒に取り組んでいるんだなと如実に感じることができるようになる。PR効果は大きいだろう。その面からも大事な事業だと思う。

<事業11：学校の魅力向上推進事業>

《鈴木委員》「両市で行う取組」に『中高一貫校の設立の可能性を検討する』とあるが、今、2市それぞれで小中学校の再編が進んでいる中、この取組が掲げられているのはなぜか。

《事務局》共生ビジョン策定時に掲げたものである。現時点では実現のハードルが高いと認識している。高校の定員割れが続いている状況から脱するため、魅力ある高校となるよう、寮の整備を県にお願いしている。他地域から生徒を受け入れる環境が整備された際に、中高一貫校などの議論をしていくことが大事だと考えている。ビジョンに記載しているが、優先度は低いと考える。

<事業12：南房総・館山地域公共交通活性化推進事業>

《鈴木委員》『チョイソコとよふさ』の運行エリアはどの地区か。また、実績はどうか。

《事務局》白浜地区、大貫地区、豊房地区である。

《鈴木委員》神戸地区や富崎地区も運行エリアに含めてほしい。買い物や通院の移動手段を確保してほしい。

《事務局》要望として担当課に伝える。実績は後日回答する。

<事業13：移住定住・就業促進事業>

《小笠原委員》事業費の内訳は。

《事務局》移住相談の業務委託費で450万円、トライアルステイの

事業費で 200 万円である。

《小笠原委員》千葉県ではNTT東日本とメタバースを活用した移住相談を行っている。時期や場所にとらわれず柔軟に開催できることや、会場借上料なども抑制できる。間口を広げる方法としてメタバース等の活用は有効だと思う。2市で協働してそのような環境を構築することで、事業7の戦略的観光プロモーションにもつながると思う。リアルだけではなくバーチャルも活用した施策を検討したほうがよいと思う。

《鎌田会長》どこをターゲットにするか分析した上で、メタバースの話を検討したほうがよいと思われる。県でも、メタバース婚活の事業を行っているように、若い世代にはそうした手法が訴求できるのかもしれない。

《事務局》意見として担当課に伝える。

<事業17：情報化推進（業務効率化）事業>

《本間委員》この事業のKPIは率ではなく数となっているが、Webフォームを活用すべき事柄に対して活用した数なのか、そうではないのか。

《事務局》確認して後日報告する。

《本間委員》負担軽減も含めIT化を進めてもらいたいと思うが、IT化すべき事業数があって、それに対する実施率があれば市民としても分かりやすいと思う。

《事務局》検討する。

<重要業績評価指標：KPI>

《鎌田会長》事業13の「事業を通じた移住者数」の数字というのは、この事業に限った移住者だけか。他の施策による移住者数も含まれているのか。

《事務局》確認し、後日回答する。

《鎌田会長》事業の効果が出てきているか見えづらいのは承知している。例えば、移住者数は定住自立圏の取組みを通じて効果が出てきている数値だが、一方で、宿泊者数、観光入込客数などは定住自立圏の取組みだけにその効果を期待することは荷が重いと感じる。定住自立圏の取組みにより更に効果があった、のような形だろう。インプットの部分（事業の実施）とアウトプット・アウトカムの部分（効果が出てきている）の視点を持たないと、計画最終年に、目標を達成できたかどうかの分析が難しくなる。個々の事業実施も大事だが、事業の効果や、効果がでていない場合にその原因究明も必要となる。

《事務局》KPIの実績は単純に定住自立圏事業だけで積み上げた数値ではないことは認識している。定住自立圏事業だけでの効果を測るKPIの設定は難しいが、KPIの指標を見直すことも必要だと認識した。

<その他>

《石渡委員》総じて、子育てしやすいまち、というのが定住に繋がる要素であると考えている。館山市も南房総市も環境が非常に良いと言われるが、なぜ今、人口減少などに苦しんでいるのか。高校卒業して東京に出てしまい、就職で戻るとしても受け皿が無いことが一つあると思うが、コロナ禍で在宅ワークが浸透したことで、毎日出社しないのであれば千葉市や東京が通勤圏内であることを認識できたと思う。私自身も毎日千葉から高速バスで1時間半で通っている。東京も2時間で行くことができる。大学を誘致しなければいけない、企業を誘致しなければいけないという課題から変化したことで、館山・南房総は自然豊かな環境で子育てしやすいね、ということにつなげることに問題があるとすれば、子どもを預ける場所や、学校が終わってから子ども達が集まれる場所が極めて少ないことである。これは多くいただく意見であり、それも考慮したうえで事業を検討し追加してほしい。

《鎌田会長》圏域人口の将来展望で5万9千人を掲げている。人口という目標を掲げながらも、併せて日本全体で人口減少する中で、暮らしの質、この街は暮らしやすいということをどのように示すのが重要となる。人口増減だけに縛られない視点も必要であると感じた。

《事務局》意見として担当課に伝える。

《八代委員》NPO法人として2市の事業に携わっていて、民間を活用することで事業がより円滑に進むのではないかと感じている。市役所は制限が厳しく、データの共有も容易ではない。一緒に取組むにあってはデータ共有方法も検討が必要。

《八代委員》情報化やDXの話題も挙がったが、南房総市のインターネット環境が脆弱であることが気になっている。リモートワークやワーケーションをしにこの地域に来る方は、この素晴らしい環境の下で、ちょっと車で移動して、仕事して、のような働き方を希望している。各携帯電話キャリアの通信環境マップで分かるが、5G提供エリアが極端に狭い。大容量データ通信するわけではないが、メール一通送信する際に時間がかかるのを嫌う。各キャリアに5G提供エリアを拡大してほしい、と2市で要望することや、移住定住の計画は2～3年かけて進めていくので、エリア拡大の情報があるのであれば、「来年には5Gが開通しますよ」と案内することで、移住先の候補として南房総・館山が選ばれる一つになる。置くだけWi-Fiが使えない地域も多くあり、個人で光回線を引いて環境整備する必要があるが、DX化を進めていくための素地が弱いのではないかと感じている。通信環境を整備することで、官民連携や移住促進が進んでいくと思う。また、小さな起業が増える素地になると思う。

	《事 務 局》意見として担当課に伝える。 3. 閉会
--	-------------------------------